

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
【発行日】令和 5 年 12 月 6 日(2023.12.6)

【公開番号】特開 2023-169181(P2023-169181A)  
【公開日】令和 5 年 11 月 29 日(2023.11.29)  
【年通号数】公開公報(特許)2023-224  
【出願番号】特願 2023-138441(P2023-138441)  
【国際特許分類】

A 61B 17/12(2006.01)

10

【FI】

A 61B 17/12

【手続補正書】  
【提出日】令和 5 年 11 月 24 日(2023.11.24)  
【手続補正 1】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0042  
【補正方法】変更  
【補正の内容】

20

【0042】

リング部 106C は、先端支持アーム 106A および基端支持アーム 106B によって支持されることが好ましい。先端支持アーム 106A は、その先端で先端キャップ部材 108 に接続され、軸方向に延在し、メッシュ部 102 の中心近傍で径方向外向きに湾曲し、最終的にリング部 106C に接続される。同様に、基端支持アーム 106B は、その基端で基端キャップ部材 110 に接続され、軸方向に延在し、メッシュ部 102 の中心近傍で径方向外向きに湾曲し、最終的にリング部 106C に接続される。先端支持アーム 106A は、基端支持アーム 106B の接続点と正反対の位置でリング部 106C に接続されてもよい。他の実施形態では、複数の支持アームが、同様に、リング部 106C へ接続されてもよい。例えば、2、3、4 または 5 つの支持アームが、リング部 106C の基端側および先端側の両方に備えられていてもよい。

30

【手続補正 2】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0045  
【補正方法】変更  
【補正の内容】

【0045】

図 7 に最もよく示されるように、ワイヤ 118、120 は、プッシャ 112 の基端へと、外側管状層 126、128 内で基端側に延在する。第 1 のワイヤ 118 は先端電気接点部 130A に固定され、第 2 のワイヤ 120 はコアワイヤ 124 に接続され、コアワイヤ 124 は最終的に中間電気接点部 130B に接続される。これらの接点部は、(例えば、絶縁スペーサ 132 を用いて) さらに電氣的に絶縁され、意図しない短絡を防止する。したがって、先端電気接点部 130A および中間電気接点部 130B に電力を印加することによって、電氣的に活性な回路を形成することができる。

40

【手続補正 3】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0047  
【補正方法】変更  
【補正の内容】

【0047】

50

操作について、プッシャ 1 1 2 を内部に有するカテーテル 1 1 3 を、カテーテル 1 1 3 の先端が標的閉塞部位に隣接するまで、患者の血管または内腔内で前進させる。例えば、カテーテル 1 1 3 の先端は、動脈瘤の中またはその入り口に配置され得る。患者内での前進の前または挿入の前のいずれかに、電気接点部 1 3 0 A、1 3 0 B および 1 3 0 C を備えるプッシャ 1 1 2 の基端が、供給ユニット 1 3 4 の差込口 1 3 4 A に挿入される。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

10

【0 0 5 0】

代替的に、血管プラグ 1 0 0 を一時的に使用することができる。具体的には、血管プラグ 1 0 0 を展開し、その後、カテーテル 1 1 3 内に引き戻すこと。

20

30

40

50